

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「感謝の季節」

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

「すべてこれらのことは、あなたがたのためであり、多くの人々が豊かに恵みを受け、感謝の念に満ちて神に栄光を帰すようになるためです。」(Ⅱコリ4:15)

すっかり秋の季節になりました。クリスマスを迎えるまでの秋の時期は忙しく、バザーやコンサートや修養会と、アツという間に過ぎていきます。

10月31日のハロウィンには諸聖徒日の前夜祭として、古代ケルトやアメリカの文化の中で収穫感謝や悪霊を追いだすというような意味合いを持たせて定着してきたお祭りだと言われています。諸説あるようですが、日本でも仮装をする日として年々その流行が強くなってきています。アミューズメントパークの影響も大きいと思いますが、子どもたちは仮装をして友だちの家を回ってお菓子をもらい歩き、ハロウィンパーティーをしたりして楽しんでます。教会の公式な行事ではないのですが、幼稚園や保育園でも、カボチャのおぼけの工作をしたり、クッキーを焼いて日ごろの感謝を伝えたりしているようです。

11月23日の勤労感謝の日に近い主日に秋の実りを持ち寄って、収穫感謝の祈りをささげる教会も多いのではないのでしょうか。様々な文化や習慣が少しずつ形を変えながら、工夫されながら定着していく面白さを感じます。

私たちは、11月1日を諸聖徒日、翌日の2日を諸魂日として守ります。先達たちの魂の平安を祈り、その信仰を受け継ぎ、守ってゆく責任を感じます。私たちの教会・関連施設などの働きを作り出してくださった先輩たち、その働きを導いてくださった神さまに感謝する時です。

クリスマスもイースターも、主日の聖餐式はもちろんですが、秋は特に、私たちに与えられた様々なお恵みに対する「感謝」を意識する季節です。自分(たち)ファーストな雰囲気は漂う昨今、神さまファースト、イエスさまファーストでありたいと思います。そ

□会議・プログラム等予定

(10月25日以降)

10月

- 24日(火)～26日(木) 定期主教会〔志木〕
- 27日(金) 管区人権問題担当者会議〔管区事務所〕
- 30日(月) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議〔管区事務所〕
- 31日(火) 教役者遺児教育基金・建築融資金委員会〔管区事務所〕

11月

- 6日(月)～9日(木) 日韓協働合同会議・研修会〔韓国・天安〕
- 10日(金) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議〔管区事務所〕
- 13日(月) 正義と平和・憲法プロジェクト会議〔京都〕
- 13日(月) 正義と平和委員会〔京都〕
- 15日(水) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔沖縄〕
- 15日(水) 財政主査会〔管区事務所〕
- 16日(木) 主事会議〔管区事務所〕
- 17日(金)～18(土) 各教区礼拝・礼拝音楽担当者会〔神戸〕
- 17日(金) 日本聖公会資料保管に関する協議会(東日本地区)〔川越〕
- 30日(木) 臨時主教会〔仙台〕
- 30日(木) 東北教区主教接手・就任式〔仙台〕

12月

- 1日(金)～2日(土) 各教区財政担当者連絡協議会〔バルナバホール〕
- 4日(月) 法憲法規委員会〔管区事務所〕
- 4日(月) 青年委員会〔管区事務所〕
- 5日(火) 常議員会〔管区事務所〕
- 6日(水) 女性の聖職に関する特別委員会〔管区事務所〕
- 7日(木) 文書保管委員会〔管区事務所〕
- 7日(木)～8(金) 各教区人権問題担当者会〔ナザレ・狭山〕
- 8日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔立教〕
- 11日(月)～12(水) 各教区宣教担当者の集い〔京都〕

<関係諸団体会議・他>

- 10月31日(火)～11月1日 IALC 東アジア地域会議〔ソウル〕

(次頁へ続く)

して、その根底には、神さまの愛に対する感謝があること、その感謝の思いが、謙虚さと福音を証していく勇気につながることも忘れずにいたいと思います。

□常議員会

第62(定期)総会期第8回 10月10日(木)

< 主な決議事項 >

1. 海外出張承認について下記の通り承認した。

- * 9/30-10/8 イギリス / カンタベリー 首座主教会議 (10/2-6) 首座主教 主教植松 誠
- * 11/6-9 韓国 / 大田・天安 日韓協働合同会議 (11/8) 総主事 司祭矢萩新一
- * 11/19-20 韓国 / ソウル NCC 韓国総会 (11/20) 総主事 司祭矢萩新一

2. 教役者給与調整支援資金の見直しについて圧縮率の採用と実施要項の変更を承認した。

3. 年金制度の見直しについて提案を受け承認した。

4. 青年委員会追加委員として聖職候補生 松山健作(京都)と松村希(中部)を承認した。

5. 第40回NCC総会代議員について下記の通り承認した。

2018年3月19日(月)～20日(火) 神田キリスト教会にて行なわれる、NCC第40回総会の代議員として、司祭西原廉太、司祭須賀義和、前島恵(3名常議員)、司祭市原信太郎、司祭太田信三、司祭神崎和子、司祭笹森田鶴、司祭竹内一也、司祭矢萩新一、植田栄基、金子登美江、児玉勢津子、高橋保、新田紗世の14名を登録。

6. NCC次期総会期負担金について現行負担額1,568,000円の維持を承認した。

7. 米国聖公会第78総会に提出された「結婚の研究に関する作業部会」報告書の抄訳を神学教理委員会が作成し、総会などの配付資料や研究用の資料としたいとの申し出があり、承認した。

8. 統計報告の書式について意見がなされ、新しい書式を検証することとした。

(前頁より)

- 11月4日(土) 横浜教区 第77(臨時) 教区会〔横浜〕
- 8日(水)～10日(金) MtS 宣教 研修〔神戸〕
- 16日(木)～18日(土) 第40回聖 公会社会福祉連盟大会〔沖 縄〕
- 23日(木) カトリック・ルーテル宗教 改革 500 周年記念合同礼 拝・講演会〔長崎〕
- 25日(土) BSA90 周年記念礼拝〔聖 アンデレ教会〕
- 29日(水) マイノリティ宣教センター 理事会〔早稲田〕
- 29日(水) 同宗連第4連絡会研修 会〔バルナバホール〕
- 12月6日(水) NCC 役員会〔早稲田〕
- 12日(火) 日本キリスト教連合会常 任委員会〔管区事務所〕

❖ 管区事務所冬期休業 12月29日(金)～1月5日(金)まで管区事務所業務を休業いたします。よろしくお願ひいたします。

9. 第14回ハンセン病市民学会(2018年5月18日～19日沖繩愛楽園)への司祭木村直樹(管区宣教主査・ハンセン病問題担当)の派遣について、承認した。

次回および次々回会議: 12月5日(火)、2018年2月20日(火)

聖公会手帳2018

大型判(A5) / ポケット判(B5)

(写真はイメージです)

- 2018年度教会暦 日課表を完全収録
- ポケット判の紙質を 軽量化、美観するの に変更いたしました。
- 日本聖公会 管区事務所による 責任編集
- 全国の聖公会の 教会・伝道所、司 祭・牧師・牧師も 充実しています

大型判 2,200円(税込) / ポケット判 1,200円(税込)

お求めは聖公会書店(☎04-2900-2771)または、お近くの書店まで

お早めにご予約を!

日本聖公会管区事務所
2017年10月

□各教区

北海道

- ・ 第76(定期)教区会 2017年11月23日
(木・祝) 8時～16時 北海道教区主教座
聖堂(札幌キリスト教会)

北関東

- ・ 第84(定期)教区会 2017年11月23日
(木・休) 10時半～17時 志木聖母教会

東京

- ・ 第129(定期)教区会 2017年11月23日
(木・休) 9時～17時 聖アンデレ主教座
聖堂・聖アンデレホール

横浜

- ・ 第78(定期)教区会 2017年11月22日
(水) 18時～23日(木・祝) 16時 横浜
聖アンデレ主教座聖堂

大阪

- ・ 第119(定期)教区会 2017年11月23日
(木・祝) 9時～17時 大阪教区主教座聖
堂(川口基督教会)・会館

神戸

- ・ 第87(定期)教区会 2017年11月23日
(木・祝) 神戸聖ミカエル大聖堂(神戸教区
主教座聖堂)

九州

- ・ 第112(定期)教区会 2017年11月22日
(水) 17時～23日(木・祝) 15時 九州教
区主教座聖堂および教区センター

沖縄

- ・ 第66(定期)教区会 2017年11月22日
(水) 18時～23日(木・祝) 15時 沖縄
教区センター

□神学校

聖公会神学院

- ・ 諸聖徒日および聖公会神学院創立感謝記
念礼拝 11月1日(水) 14時 聖公会神
学院諸聖徒礼拝堂 司式:校長 司祭 佐々
木道人 説教:司祭 竹内謙太郎(東京・
退)

ウイリアムス神学館

- ・ ウイリアムス神学館関係逝去者記念聖餐
式 12月2日(土) 13時半 聖アグネス教
会(京都教区主教座聖堂) 司式:主教 高
地 敬 説教:主教 中村 豊(神戸・退)

《人事》

横浜

司祭 サムエル北澤 洋

2017年10月4日付 八日市場聖三一教会副牧師の任を解く。

2017年10月5日付 八日市場聖三一教会牧師に任命する。

主教 ローレンス三鍋 裕

2017年10月4日付 八日市場聖三一教会管理牧師の任を解く。

中部

司祭 ヨシユア鈴木光信

2017年10月8日付 飯山復活教会、稲荷山諸聖徒教会、新生
礼拝堂における主日礼拝協力の委嘱の任
を解く。

首座主教会議に出席して

— 今回の会議の特色 —

首座主教・北海道教区主教 ナタナエル 植松 誠

首座主教会議は10月2日～6日、英国のカンタベリー大聖堂で開催された。アングリカン・コミュニオンは世界に広がる教会共同体であるが、カトリック教会とは違って、それぞれの管区に自治自律が認められている。そうすると、同じ「聖公会」と言っても、管区によっては、祈祷書、法規など、多少異なっていることは当然と言える。従来から、そのようなコミュニオンを表す言葉として「多様性の中の一致」が言われてきた。そして、その一致を守るために、四つの「機関」、即ち、①全世界聖公会中央協議会（ACC）、②ランベス会議、③カンタベリー大主教、④首座主教会議が定められている。

今回の首座主教会議には、さる7月30日に39

番目の管区として発足したスーダン聖公会（今までのスーダン聖公会は南スーダン聖公会と名を変えた）の首座主教始め16人の新任首座主教を含めて33管区の首座主教が参加した。ナイジェリア、ウガンダ、ルワンダの3首座主教はアングリカン・コミュニオン内の一連の動き、特に人間の性をめぐる動きに抗議して欠席、他3人は国内の諸事情で欠席した。

初日の午前中は、カンタベリー大聖堂を各自が自由に使って黙想と祈りに用いられた。

首座主教会議のセッションは、多くの協議事項があり、最終日まで毎回熱心な協議が行なわれた。新任首座主教が多いということもあり、「一致のための4機関」についても話し合われ



た。その中で特に、コミュニオンの「権威」についても意見が続出した。その背景には、4機関の決議が、いずれも各管区や他の機関を拘束するものではないということで、今までの首座主教会議やACCなどで決めたこと、特に同性愛に関する決議が米国やカナダ聖公会などで守られていないという不満が、グローバルサウスの首座主教たちにあったようだ。

アフリカのある首座主教からは、カトリック教会における教皇のような権威をカンタベリー大主教に付与すべきという極論も出たが、結局、「拘束しない」という従来の在り方こそが、アングリカン・コミュニオンの良さだということで落ち着いた。しかし、それはまた同時に、これらの決議に関して、それぞれの管区は、重く捉えて履行する責任を負うものだという点でもあった。

最近スコットランド聖公会で、「同性婚」が法

規で認められたが、それは前回の首座主教会議の決議を重んじた結果、同聖公会は、前回米国聖公会に課せられたように、今後3年間にわたって、コミュニオンの重要ポストから締め出されるということになり、またスコットランド聖公会もそれを受け容れた。

迫害下にある教会、気候変動で数十年後には海面下に沈む教会、飢餓や貧困にある教会、先住民への虐待への教会の加担など、重い課題もたくさん話された。しかし、これまで私が参加した5回の首座主教会議の中では、今回が最もよい雰囲気であったと思う。誰もが正直に問題について発言し、また聴きあう姿勢があった。そのような中で、私は日本聖公会の原発問題への取り組み、大韓聖公会との和解と宣教協働の働きなども紹介、提案することができたと思う。

世界の聖公会の動向

・シエラレオネの地滑りに対する祈りと行動

管区渉外主事

司祭 ポール・トルハースト

○シエラレオネの地滑りに対する祈りと行動

シエラレオネの最近の大規模な地滑りによる死者数は500人を超えた。犠牲者の4分の1は子供であり、その多くが未だ埋まったままであると考えられている。フリータウン(シエラレオネ首都)のマザーズ・ユニオン(MU)は、被災者のニーズに応えるためにメンバーを動員した。MUフリータウン支部代表のピクトリア・ウィルソン氏は、「私たちは病院に入院している人々に食料品、衣類、洗面用品、水を提供しています。犠牲者のために、そして泥を掘って死者を探すために昼夜を問わず働く様々な人々のためにお祈りください。」と語った。

シエラレオネを含む聖公会西アフリカ管区は、英国聖公会チチェスター教区と姉妹提携をしており、管区の枠を越えてこのひどい洪水と土砂崩れに巻き込まれたすべての人々に対し祈りを捧げ仲介を提供している。チチェスター教区のマーティン・ワーナー主教は「すべての犠牲者と関係する方々、そしてあらゆる方法で助けてくれる人々のために祈ってください」と呼びかけた。

📖 出版物案内

・『2018年度 教会暦・日課表』

2017年10月15日付発行 頒価300円(税込)
(10月25日現在残部僅少)

・『おいで子どもたち』

2016年10月24日付発行 価756円(税込)

・『聖公会手帳 2018』

2017年11月上旬発行予定

大型判 頒価2,200円(税込)

小型判 頒価1,200円(税込)

お求めは聖公書店(04-2900-2771)、またはお近くのキリスト教書店にお願いいたします。

■教会の声 / 読者の声

キャロリングの思い出 (水野智彦さんのこと)

— 日米戦時交換船とタッカー主教の信念ある行動 —

先日、日経新聞に太平洋戦争中の「戦時交換船」の話が載っていた。この「戦時交換船」とは、先の戦争の日米開戦時に相手国に取り残された外交官や駐在員を本国に帰国させるために運航された船のことで、日米間では大戦中に二回運航されている。

さて、私は40年以上前に名古屋で聖公会の教会に出会い、その後、住む場所は変わった現在も教会につながっているが、名古屋に居た頃、水野智彦さんという高齢の信者の方がおられた。毎主日、会衆席の決まった場所で、きちんと背広を着てネクタイを締め、礼拝に出席されていた。私が30代の頃には、水野さんは既に80代くらいだったと思うが、この水野さんが、記事にあった「戦時交換船」で日本に帰国されていたのである。

このいきさつについては、ご本人も小冊子に書かれており、又、直接お話を伺ったこともあったが、水野さんが亡くなられて20年が過ぎ(1997年逝去、106歳)、このような事実があったことを知っておいて頂きたいと思い投稿する。

水野さんは、1891年(明治24年)に東京で生まれ、大学時代に聖公会で洗礼を受け、1916年(大正5年)に名古屋の森村組(現在の森村商事の前身で、ノリタケ、日本特殊陶業、日本ガイシ等を創業)に入社された。同社は陶磁器の製造、販売、輸出に係わる事業を展開しており、水野さんも、入社後に陶磁器類の輸出業に携わり、ちょうど、日米開戦の1941年(昭和16年)にはニューヨーク支店長として米国に滞在されていたそうである。日米の険悪な状況のもとで大手商社のメンバーが次々と帰国する中、支店閉鎖に係わる仕事や従業員の解雇、給与の支払いなど

の業務に追われている最中の同年12月8日に真珠湾攻撃が起きたのである。命がけで仕事を続けている時の日米の開戦であり、それは我々の想像を超えるような厳しい状況の中での業務ではなかったかと思われる。

間もなく、水野さんは在米日本人として拘留され、エリス島にあった収容所に収監された。しかし、約2か月後に裁判の席に呼び出された時、当時の米国聖公会の総裁主教タッカー氏や元従業員など6名が弁護人として出席されており、更に「嘆願書」なども出されていたとのことであった。この時、タッカー主教からは「水野氏はアメリカに不利な活動をするような人物ではない」との発言があったとのことで、暫くして出所・帰国されることになった。そして、日米が交戦している中で中立国ポルトガル領の東アフリカの港を経由して「交換船」で帰国されたのである。

この弁護人として出席された米国聖公会総裁主教のタッカー氏は、立教大学の資料によると、1899年25歳の時に来日して立教大学総理や京都教区主教を務められた方で、ウィリアムズ主教が築地で開設された「立教学校」を拡張して「立教大学」を創設し、手狭な築地から現在の池袋への移転を実行された方でもあった。その後、1923年に帰国されて1938年から1946年までは米国聖公会の総裁主教であった。水野さんの裁判に弁護人として出席されたのは、1942年(昭和17年)の出来事である。

水野さんは、米国聖公会の教会でタッカー主教の司式された聖餐式に出席した旨を記しているが、東京でも二人の時期が重なっており、その頃から面識があったのではなかろうか。遙か100年前の話である。いずれにしても、米国聖公会

総裁主教の弁護の発言は、大きな影響力があったと思われる。なお、立教大学では現在、大学の講堂を「タッカーホール」と名付けてタッカー主教の功績を記念している。

思うに、信仰に基づいた信念ある行動によって拘留された水野さんに対し、タッカー主教も信念を持って行動され、この結果が日米交戦中に「交換船」で帰国するという出来事に至ったのではないかと想像する。

私が水野さんにお会いした頃には、既にかなりのご高齢であった。水野さんについて印象的に覚えていることは、クリスマスイブの夜のキャロリングで、お宅に伺った時のことである。当時、水野さんは既にリタイアされており、皆が歌

う聖歌を玄関の前で奥様と二人で静かに聴かれていた姿を思い出す。高齢ではあったが、あの時の水野さんの中にも、固い信仰心が息づいていたのではなからうか。

なお、今回、「戦時交換船」のことを少し調べてみたが、これに関して、もう一つエピソードがある。水野さんとは全く逆の状況で、開戦時に日本に残っていたため拘留され、水野さんの乗って来た交換船で米国に帰国した人物の中に、清里を開いたポール・ラッシュさんがいた。歴史には、間違いなく神意が働いているような気がしている。
(MHY)

聖オルバン教会の礼拝に出席す るハガティ新駐日大使

ケネディ前大使の後任として、今年8月に着任したアメリカの新駐日大使 ウィリアム・ハガティ (William F. Hagerty) 氏は、着任直後からはほぼ毎主日、夫人および4人の子どもと一緒に東京の聖オルバン教会の礼拝に出席している。

いつも最後列に座り、陪餐を受け、礼拝が終わると迎えの車で帰る。

夫人は下の女の子に付き添って日曜学校に出て、途中から礼拝に参加する。

9月24日は大畑主教の巡回日で、礼拝後、2人は教会の入口で固い握手を交わした。(写真)

アメリカ大使が聖オルバン教会の礼拝に恒常的に出席するのは、ハガティ氏がおそらく初めてと思われる。かつてはイギリス大使始め、ガーナ、レソト他の大使が出席していた。いずれも転勤で帰国し、現在は一人もいない。

ハガティ大使について、確認したわけではないが、聖オルバン教会へ来る外国人は、必ずしも聖公会の信徒とは限らない。カトリックやルーテル教会など他の教派の人もある。英語で礼拝



東京教区・大畑喜道主教と
駐日アメリカ大使 William Hagerty氏が握手
2017年9月24日(聖オルバン教会) 撮影:吉松英美

を行なっている教会ということで聖オルバン教会に来るのであろう。

東京教区・聖オルバン教会 吉松英美

Alleluia

- 教会の声/読者の声欄への寄稿を歓迎します。
内容・字数は自由。宛先は「管区事務所だより」編集室・広報主事。メールまたは郵便でお願いします。



人権活動

を支える主日

11月26日
(11月最後の主日)

2017年

わたしは失われたものを尋ね求め、
追われたものを連れ戻し、
傷ついたものを包み、
弱ったものを強くする。
(エゼキエル 34:16 a)

日本聖公会

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。